

右側の沢に入っすぐのところでもた二俣に分れており、直進するのが右俣、左に
曲り込んでいるのが本沢となっている。分岐からの白水沢は何の変哲もない沢筋で
面白味がない。しばらくの単調な登りのあとF8が現われる。両岸がガレ場になっ
ており、滝の岩もポロポロのため、右岸のガレ場を少し巻き滝の上部に出る。続いて
F9が現われる。この滝は前の滝とは対照的にホールドがしっかりしており、左側を
快適に直登できる。ここを過ぎるとのとは単調な登りとなり、甲子峠へつき上げる
沢との分岐を過ぎしばらく進むと砂防のえん堤に出る。その上の急なガレ場を登る
と道路に出て遡行完了。
(記・森 慎吾)

一里滝沢 1977年6月12日

〔パーティ〕 L西和文 加藤久美 富沢いさお(郡山労山)

〔記 録〕

幕营地(6:45)——一里滝沢出合(7:15, 7:30)——二俣(8:45, 8:55)
——沢終了(9:55, 10:15)——坊主沼避難小屋(11:20, 11:45)——
甲子山(12:30, 13:50)——幕营地(14:50)

南沢に入るパーティと一緒に本谷を出合まで登る。南沢と一里滝沢はすぐ近くで
本谷に合流している。出合は一里滝沢の方が暗く、険悪さを感じさせる(名前から
いっても)が、沢の内容は一里滝沢の方がごく平凡だ。7時30分身仕度をして出
発。すぐF1 10m ナメ滝。きれいな滝である。続いて小滝がいくつもあらわれる。こ
れは上等の沢だと期待したら、中洲のあるあたりから滝もなくなり平凡になってし
まった。ガツカリ。やがて左岸から小沢が合流。この小沢少し入った所に70mの大
きな滝がある。一見に価するからちょっと寄り道して観察した。やがて小さな廊下
となり小滝が2つあって二俣。右の沢に入れば早く稜線ににげれると思ったが、時
間も早いのでさらに本流をつめる。小滝を4つ程こえるとまた二俣。左俣は5mの滝
右俣はナメである。右俣に入る。もう沢幅もせまく水量も少ない。とい状に流れて
いる所を過ぎ滝を越える。沢はこの辺から浅いV字谷状だ。小さな滝が連続するが
簡単に越えてゆく。右岸から小沢が合流すると急傾斜の登りとなる。コケが多くな
り、フラジをはいていてもよくすべる。F13を越えるのに一苦労。最後のF14 5m
滝は岩がポロポロでやむなく左岸の草つきに取り付く。この滝のすぐ上が瀑水。岩
の間からかなりの量の水がわき出し、その上流は緩傾斜になるが水流はなく、沢筋
もヤブの中ではっきりしない。ヤブのうすい所を選んで歩き、約1時間で坊主沼避
難小屋に出る。このあたり湿地と小沢の流れがいろいろあって地形判断がむずかし

